

平成26年における宇都宮市の交通事故の発生状況について

交通事故統計情報は栃木県警察本部交通企画課提供

交通事故発生件数、負傷者数は概数

1 宇都宮市の交通事故発生件数、死者数、負傷者数の推移

平成26年の本市の交通事故発生件数1,966件(前年比▲397件)、死者数17人(前年比+4人)、負傷者数2,416人(前年比▲522人)と、死者数は増加したものの、2年連続、発生件数、負傷者数は減少している。


特に、発生件数及び負傷者数については、昭和45年以降、過去最小値となった。

また、事故発生件数は前年比▲16.8%となり、栃木県▲13.8%、全国▲8.8%に対し、減少割合が高かった。

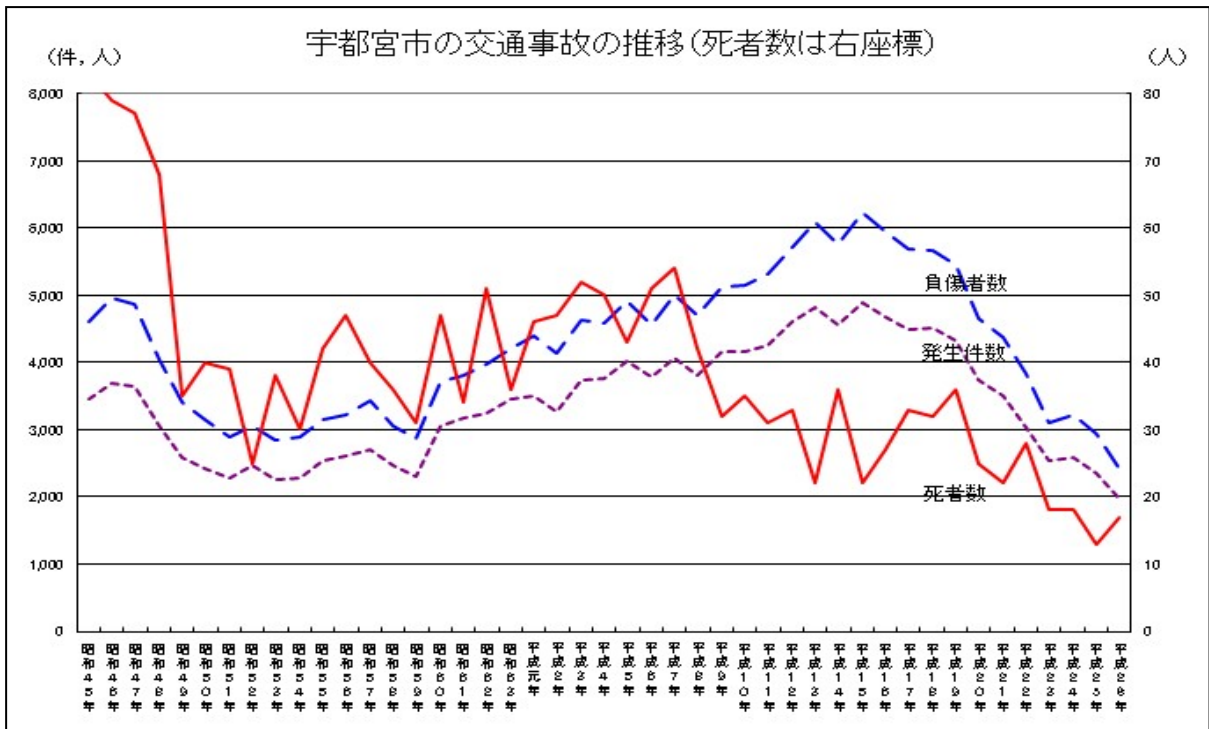
(1) 過去5年間の推移と第9次宇都宮市交通安全計画(H23~H27)の目標値

項目	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	目標値
交通事故発生件数	3,043件 (▲460件)	2,535件 (▲508件)	2,576件 (41件)	2,363件 (▲213件)	1,966件 (▲397件)	1,800件 以下
交通事故死者数	28人 (6人)	18人 (▲10人)	18人 (0人)	13人 (▲5人)	17人 (+4人)	14人 以下
交通事故負傷者数	3,831人 (▲540人)	3,102人 (▲729人)	3,225人 (123人)	2,938人 (▲287人)	2,416人 (▲522人)	2,200人 以下

注) 下段()は対前年増減数

 第9次交通安全計画

(2) 宇都宮市の交通事故の推移



- ア 発生件数1,966件(過去最小値)、過去最多4,887件(H15)の半数以下
 イ 死者数 17人(過去2番目に少ない値)、過去最多83人(S45)の約5分の1
 ウ 負傷者数2,416人(過去最小値)、過去最多6,236人(H15)の半数以下

2. 市内の交通発生状況からみられた特徴

(1) 事故類型別の特徴

【P3 グラフ】

事故類型別では、車両相互が約85%、車両相互のうち、「追突」が48.9%、「交差点等（出会い頭、右左折）」が39.2%と多くを占めている。

(2) 年代別の特徴

【P4, 5 グラフ】

年代別に交通事故発生件数を見ると、20歳代が450件と最も多い。

さらに、事故の第一当事者数を年代別に見ると、全世代で減少しているものの、40歳代、65歳以上の減少率が低い。また、20歳代が23.3%（人口構成比約10.6%）、高齢者が17.9%（人口構成比約22.3%）と多く、高齢者は増加（平成22年14.0%⇒平成26年17.9%）している。

(3) 自転車事故の特徴

【P5, 7, 8 グラフ】

自転車の交通事故発生件数は421件（前年比▲88件）と減少し、ほとんどの世代において減少した。

また、自転車乗車中の事故（第一当事者）のうち、高齢者が占める割合は37.1%、15歳以下が占める割合は21.9%と多くを占めている。

(4) 死亡事故の特徴

【P9 グラフ】

死者数17人のうち、65歳以上の高齢者が6人（35.3%）と多くを占めている。

死者数17人のうち、歩行者の事故が10人（58.8%、うち高齢者3人）と、前年比+5人増加した。夜間の歩行者の事故が8人と多かった。

(5) 飲酒運転による事故

【P10 グラフ】

酒気帯び運転による交通事故発生件数及び死者数は、前年より▲14件、▲2人減少した。

また、酒気帯び運転による交通事故発生件数を年代別に見ると、30歳代が8件と最も多く、40歳代が5件、50歳代が4件と次いで多かった。

(6) 道路別の特徴

【P11, 12 グラフ】

道路別に事故発生件数を見ると、国道、県道、市道でともに減少しているが、国道・県道の死者数が増加した。また、事故類型別で見ると、市道は国道・県道に比べ、交差点等（出会い頭、右左折時等）の事故が多く、追突の事故が少ない。また、市道は、人対車両の事故が国道・県道の約4倍、車両単独の事故が約3倍と多い。

(7) その他の特徴

【P13, 14 グラフ】

・月別に交通事故発生件数を見ると、上位月は12月、10月、1月となり、12月のみ前年比増加した。また、8月～12月（後半）にかけて死亡事故が多く発生している。

・曜日別に交通事故発生件数を見ると、上位曜日は金曜日、木曜日、月曜日の順となり、金曜日は過去8年連続（H19～H26）で一番多い曜日となっている。

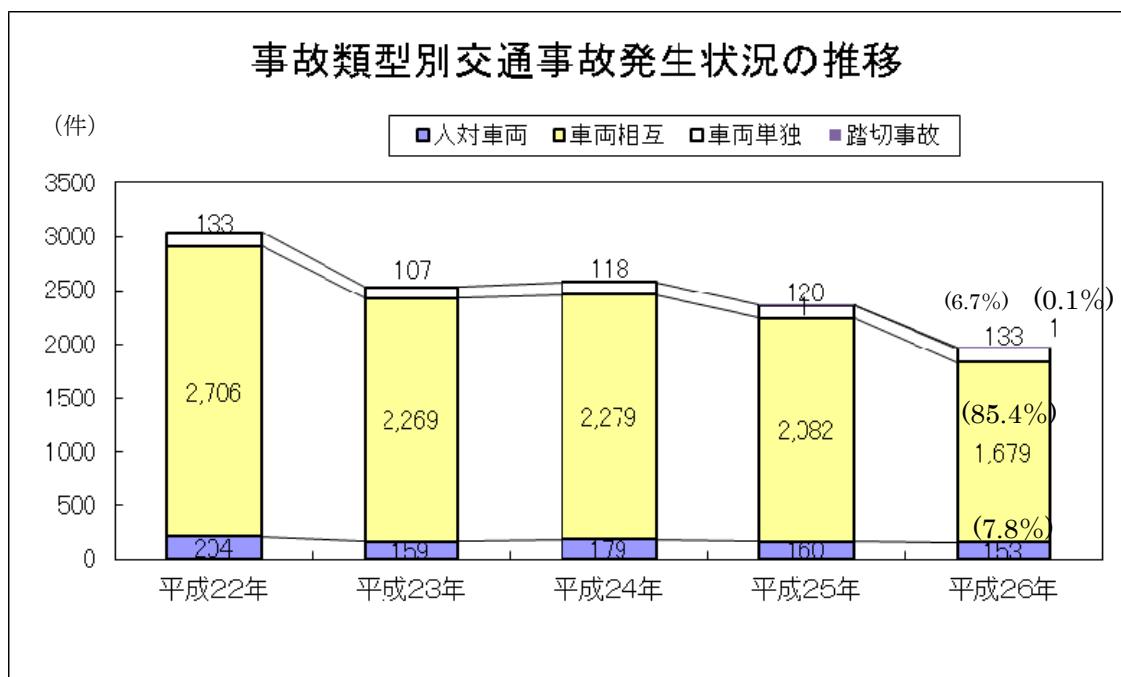
・時間帯別に交通事故発生件数を見ると、8時台（通勤・通学）が最も多く、次いで17時台（買物・帰宅）に多く発生している。

【参 考：市内の交通事故発生状況からみられた特徴】

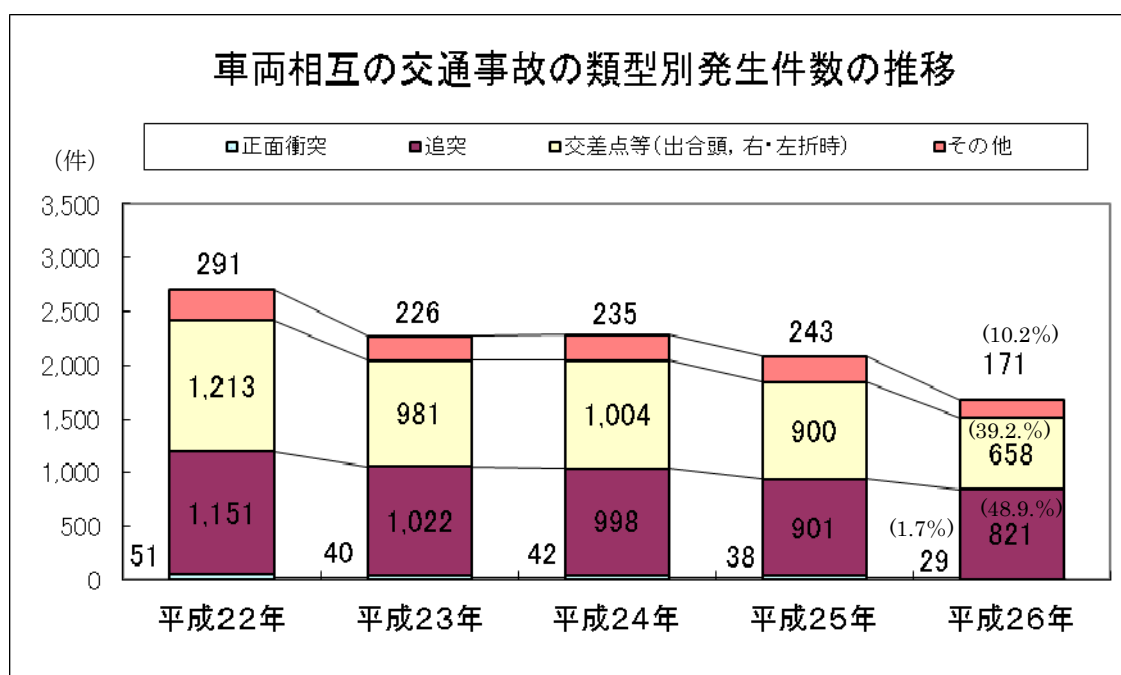
(1) 事故類型別の特徴

事故類型別では、車両相互が約85%占めており、車両相互のうち、「追突」が48.9%、「交差点等（出会い頭、右左折）」が39.2%と多くの要因を占めている。

① 事故類型別交通事故の発生状況の推移



② 車両相互の交通事故の類型別発生件数

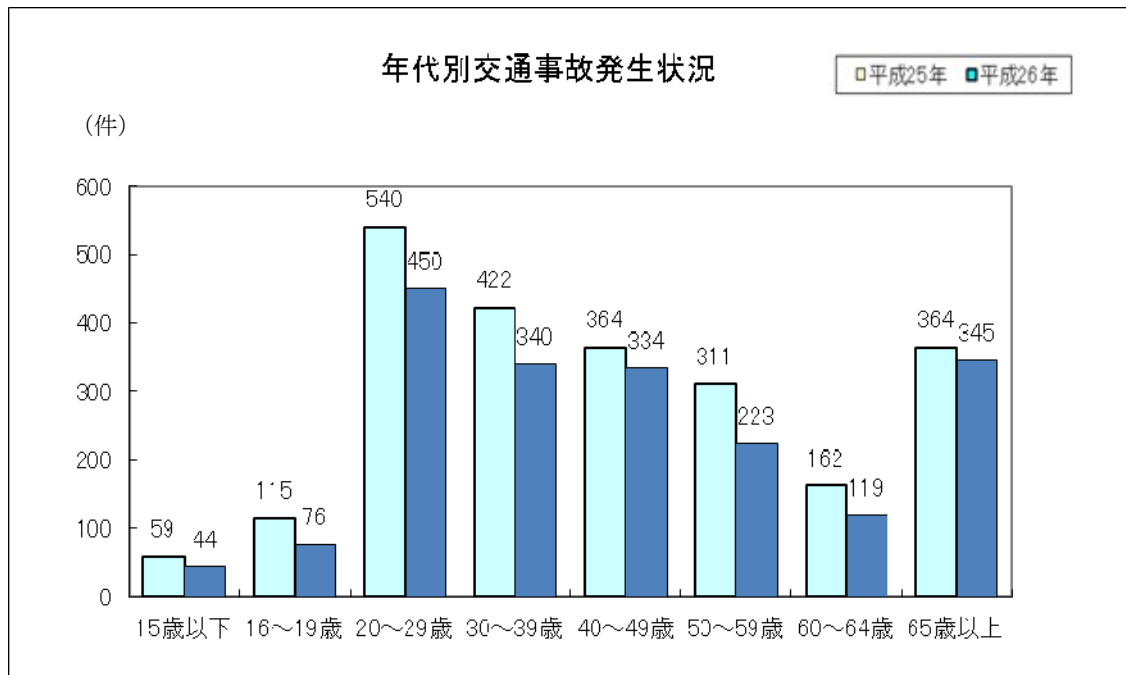


(2) 年代別の特徴

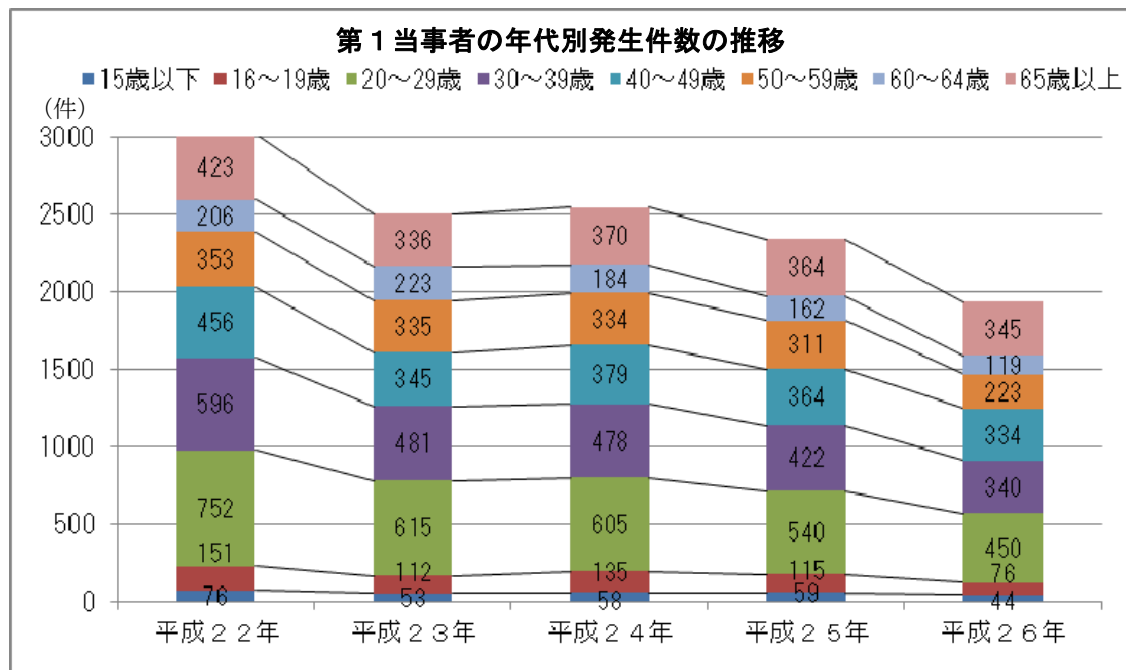
年代別に交通事故発生件数を見ると、20歳代が450件と最も多い。

さらに、事故の第一当事者を年代別に見ると、全世代で減少しているものの、40歳代、65歳以上の減少率が低い。また、20歳代が23.3%（人口構成比約10.6%）、高齢者が17.9%（人口構成比約22.3%）と多く、高齢者は増加（平成22年14.0%⇒平成26年17.9%）している。

① 年代別交通事故発生状況



② 第1当事者の年代別発生件数の割合の推移



③ 第1当事者の年代別・状態別発生件数

区 分		15歳以下	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	合計	構成比	
自動車乗車中	平成26年	件数	0	55	429	324	316	204	115	275	1,718	89.0
		構成比	0.0	3.2	25.0	18.9	18.4	11.9	6.7	16.0	100.0	
	平成25年	件数	0	83	514	408	346	296	150	305	2,102	90.0
		構成比	0.0	3.9	24.5	19.4	16.5	14.1	7.1	14.5	100.0	
	増減数(件数)		0	▲ 28	▲ 85	▲ 84	▲ 30	▲ 92	▲ 35	▲ 30	▲ 384	
	増減率(件数)		-	▲ 33.7	▲ 16.5	▲ 20.6	▲ 8.7	▲ 31.1	▲ 23.3	▲ 9.8	▲ 18.3	
自動二輪車乗車中	平成26年	件数	0	0	2	1	3	1	0	2	9	0.5
		構成比	0.0	0.0	22.2	11.1	33.3	11.1	0.0	22.2	100.0	
	平成25年	件数	0	3	4	2	2	2	0	1	14	0.6
		構成比	0.0	21.4	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0	7.1	100.0	
	増減数(件数)		0	▲ 3	▲ 2	▲ 1	1	▲ 1	0	1	▲ 5	
	増減率(件数)		-	皆減	▲ 50.0	▲ 50.0	50.0	▲ 50.0	-	100.0	▲ 35.7	
原付自転車乗車中	平成26年	件数	0	7	7	2	2	1	1	4	24	1.2
		構成比	0.0	29.2	29.2	8.3	8.3	4.2	4.2	16.7	100.0	
	平成25年	件数	1	5	4	3	2	3	3	4	25	1.1
		構成比	4.0	20.0	16.0	12.0	8.0	12.0	12.0	16.0	100.0	
	増減数(件数)		▲ 1	2	3	▲ 1	0	▲ 2	▲ 2	0	▲ 1	
	増減率(件数)		皆減	40.0	75.0	▲ 33.3	-	▲ 66.7	▲ 66.7	-	▲ 4.0	
自転車乗車中	平成26年	件数	33	13	10	10	10	16	3	56	151	7.8
		構成比	21.9	8.6	6.6	6.6	6.6	10.6	2.0	37.1	100.0	
	平成25年	件数	40	23	17	7	13	9	9	50	168	7.2
		構成比	23.8	13.7	10.1	4.2	7.7	5.4	5.4	29.8	100.0	
	増減数(件数)		▲ 7	▲ 10	▲ 7	3	▲ 3	7	▲ 6	6	▲ 17	
	増減率(件数)		▲ 17.5	▲ 43.5	▲ 41.2	42.9	▲ 23.1	77.8	▲ 66.7	12.0	▲ 10.1	
歩行中	平成26年	件数	11	1	2	3	3	1	0	8	29	1.5
		構成比	37.9	3.4	6.9	10.3	10.3	3.4	0.0	27.6	100.0	
	平成25年	件数	18	1	1	2	1	1	0	4	28	1.2
		構成比	64.3	3.6	3.6	7.1	3.6	3.6	0.0	14.3	100.0	
	増減数(件数)		▲ 7	0	1	1	2	0	0	4	1	
	増減率(件数)		▲ 38.9	-	100.0	50.0	200.0	-	-	100.0	3.6	
合 計	平成26年	件数	44	76	450	340	334	223	119	345	1,931	100.0
		構成比	2.3	3.9	23.3	17.6	17.3	11.5	6.2	17.9	100.0	
	平成25年	件数	59	115	540	422	364	311	162	364	2,337	100.0
		構成比	2.5	4.9	23.1	18.1	15.6	13.3	6.9	15.6	100.0	
	増減数(件数)		▲ 15	▲ 39	▲ 90	▲ 82	▲ 30	▲ 88	▲ 43	▲ 19	▲ 406	
	増減率(件数)		▲ 25.4	▲ 33.9	▲ 16.7	▲ 19.4	▲ 8.2	▲ 28.3	▲ 26.5	▲ 5.2	▲ 17.4	
H26.12.31 現在 人口人数		77,771	18,945	55,188	75,655	79,980	61,720	35,155	116,039	520,453		
構成比		14.9	3.6	10.6	14.5	15.4	11.9	6.8	22.3	100.0		

注) 第1当事者：交通事故に関係した者のうち、過失が最も重い者をいい、過失同等の場合は被害がより軽い者をいう。

注) 第1当事者が不明なものは計上していない。(参考:第1当事者不明 平成26年35件, 平成25年26件)

(3) 自転車事故の特徴

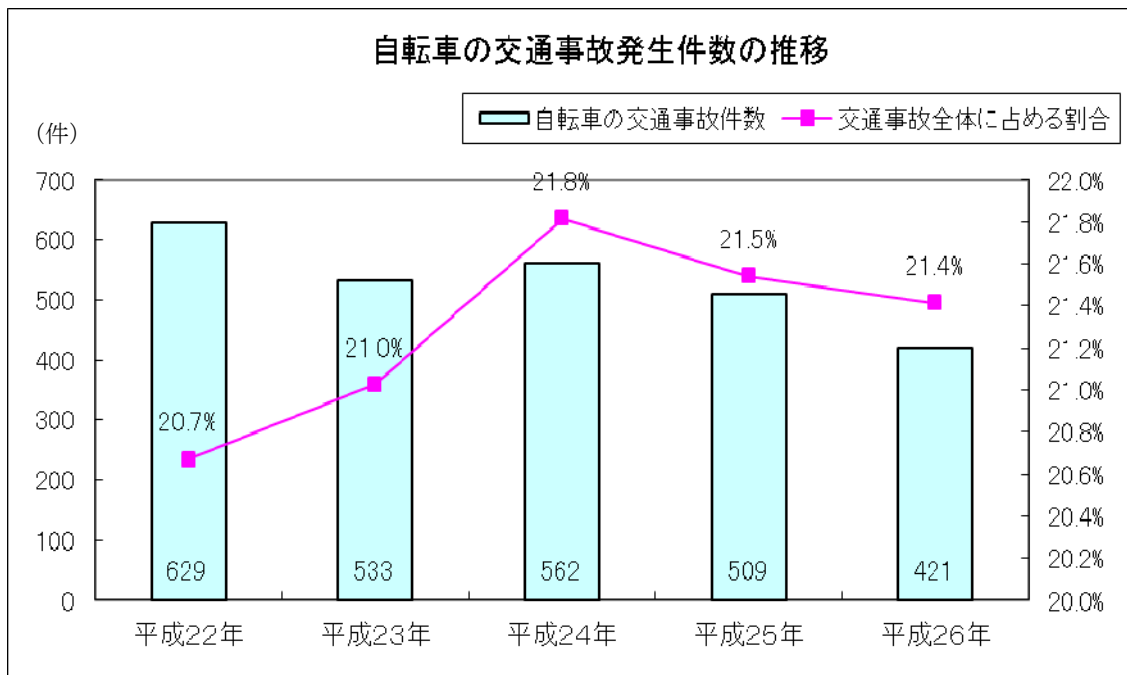
自転車の交通事故発生件数は421件（前年比▲88件）と減少し、ほとんどの世代において減少し、自転車事故の第1当事者数も151人（前年比▲17人減）と減少している。

また、自転車乗車中の事故（第一当事者）のうち、高齢者が占める割合は37.1%、15歳以下が占める割合は21.9%と多くを占めている。

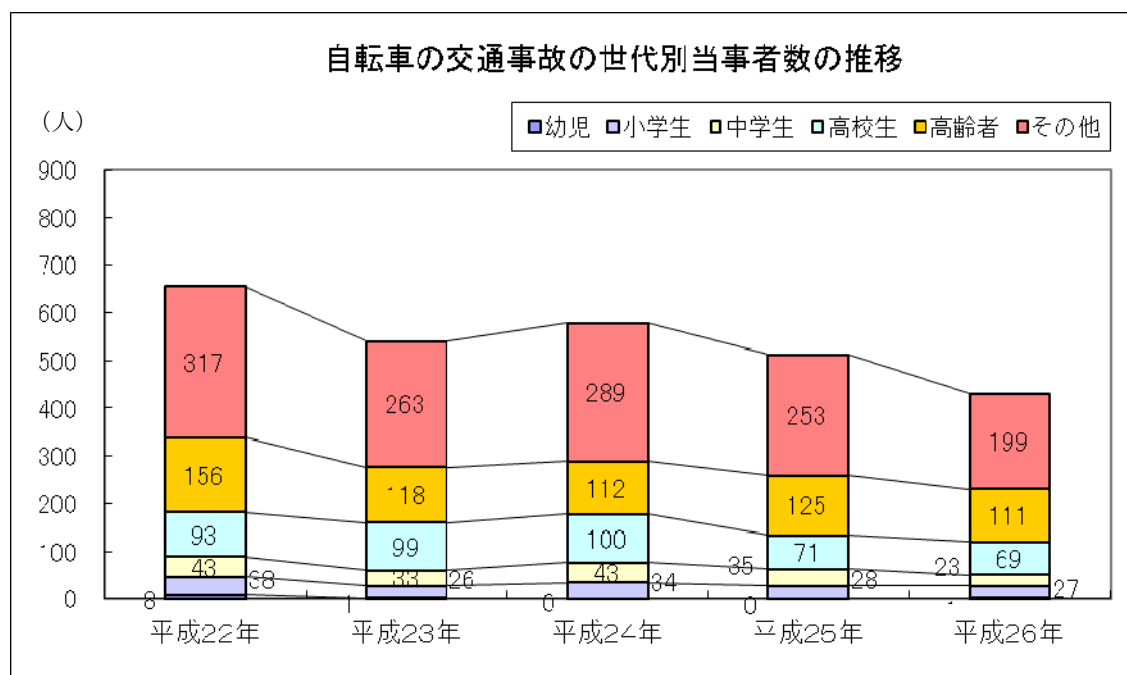
また、自転車が第1当事者となる事故を原因別に見ると、ハンドル操作不適（45.9%）、交差点の安全通行違反（14.6%）、一時不停止（10.0%）と多く占めている。

※その他不明：前方不注意など

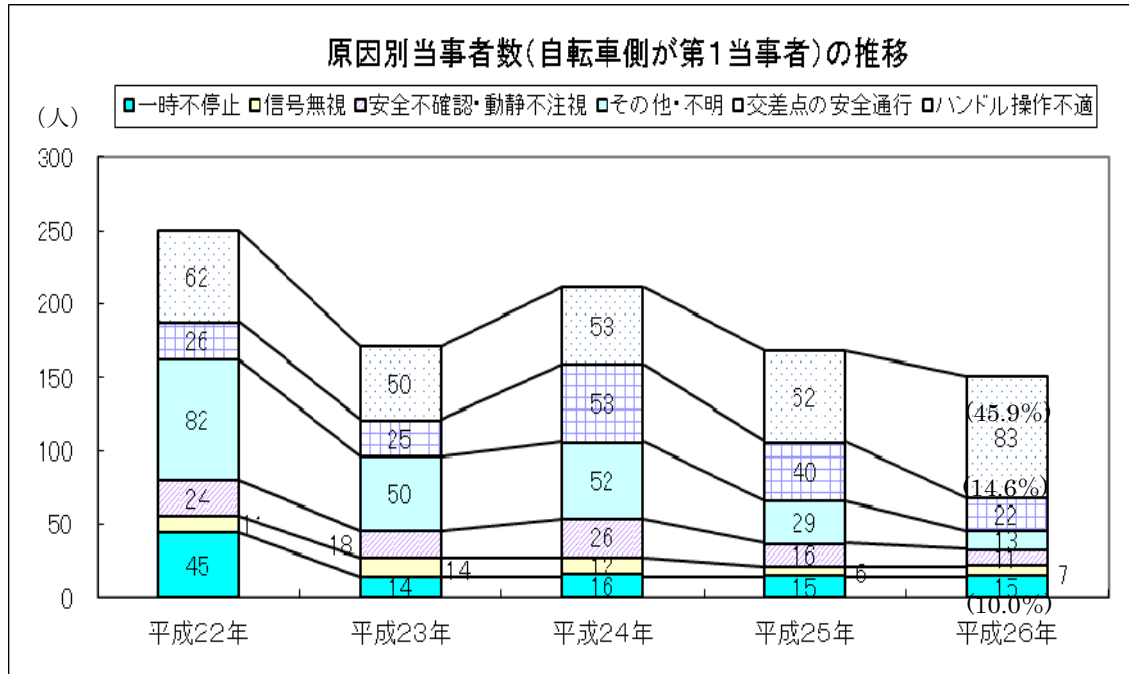
① 自転車の交通事故発生件数の推移



② 自転車の交通事故の世代別当事者数の推移



③ 原因別当事者数（自転車側が第1当事者数）の推移

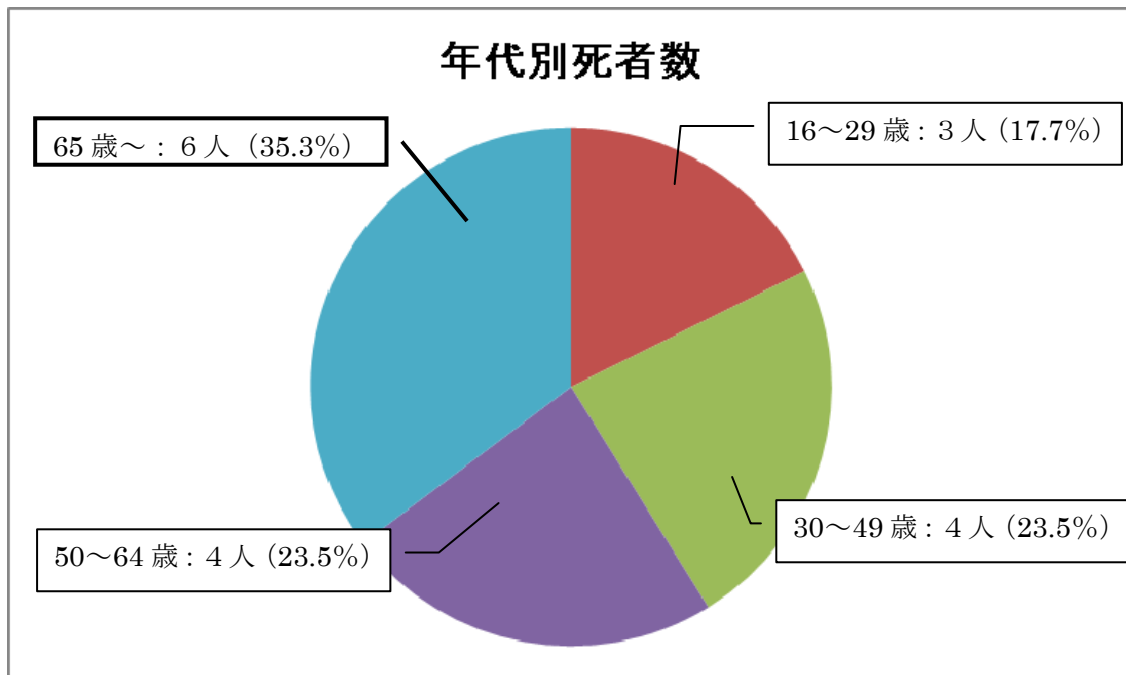


(4) 死亡事故の特徴

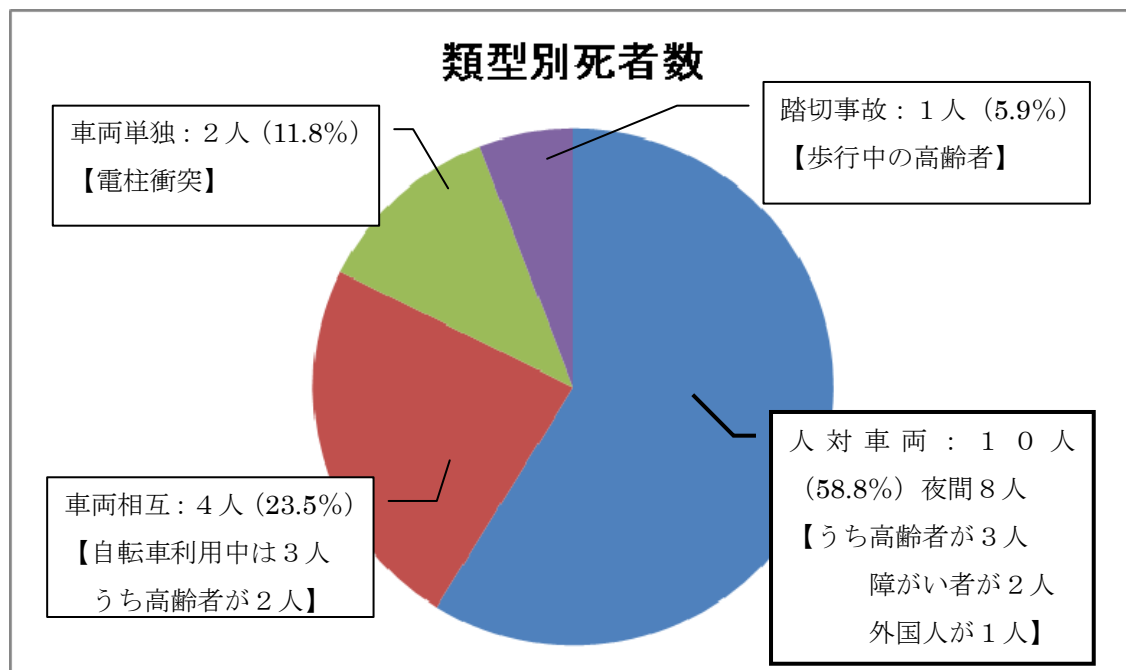
死者数17人のうち、65歳以上の高齢者が6人(35.3%)と多くを占めている。

死者数17人のうち、歩行者の事故が10人(58.8%,うち高齢者3人)と、前年比+5人増加した。夜間の歩行者の事故が8人と多かった。

① 年代別死者数



② 類型別死者数

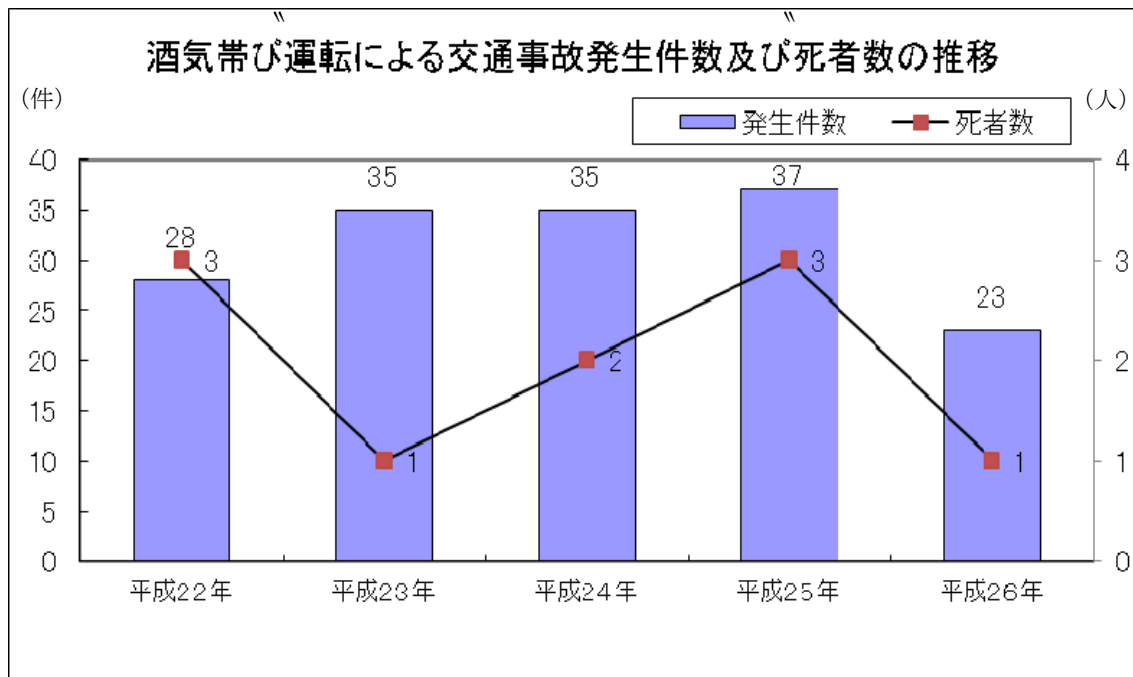


(5) 飲酒運転による事故

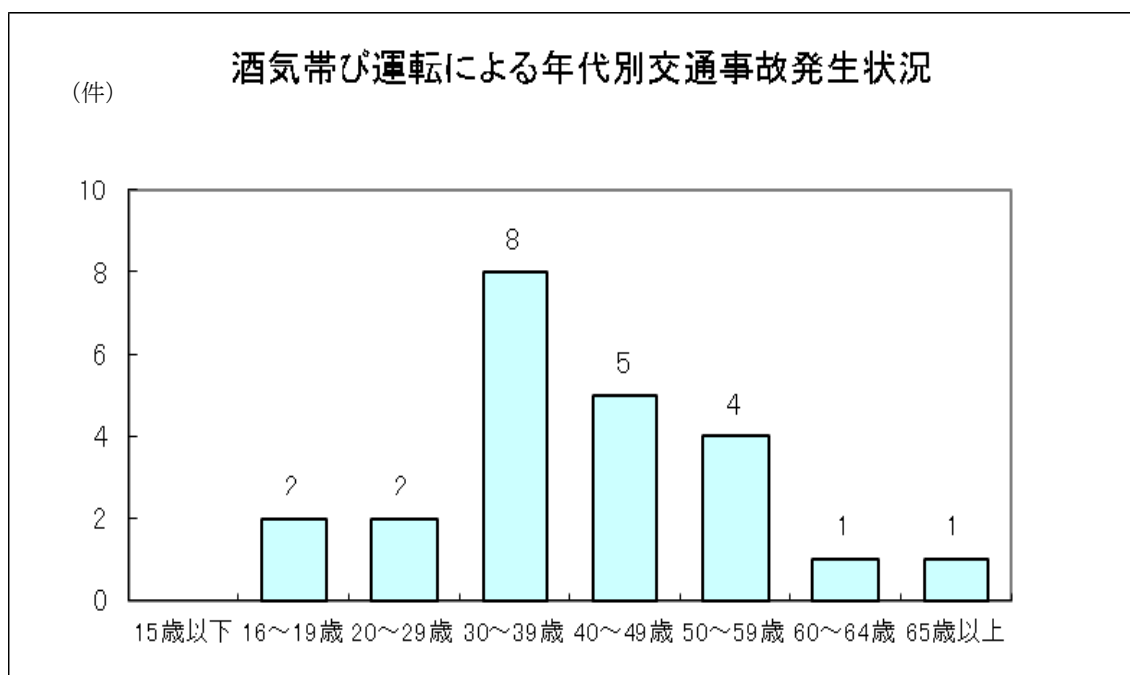
酒気帯び運転による交通事故発生件数及び死者数は、近年増加傾向にあったが、前年比▲14件、▲2人と減少した。しかし、依然として飲酒運転による事故が発生している。

また、酒気帯び運転による交通事故発生件数を年代別に見ると、30歳代が8件と最も多く、40歳代が5件、50歳代が4件と次いで多かった。

① 酒気帯び運転による交通事故発生件数及び死者数の推移



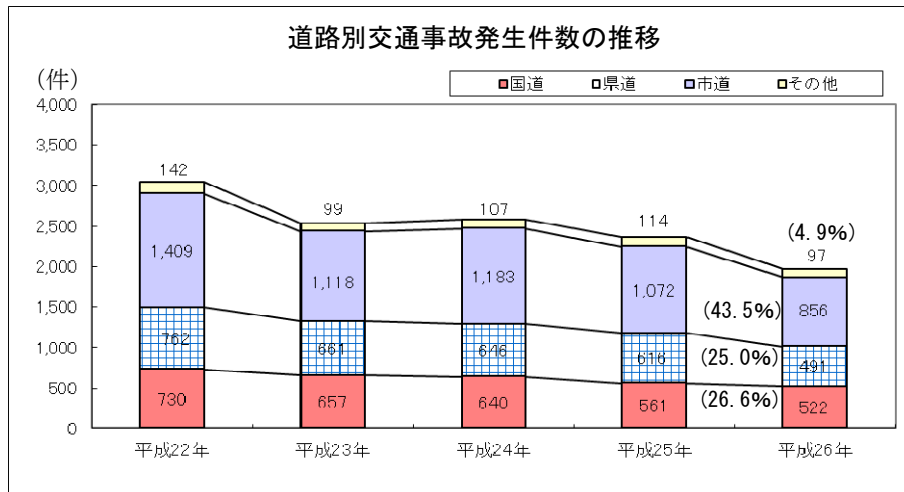
② 酒気帯び運転による年代別交通事故発生状況



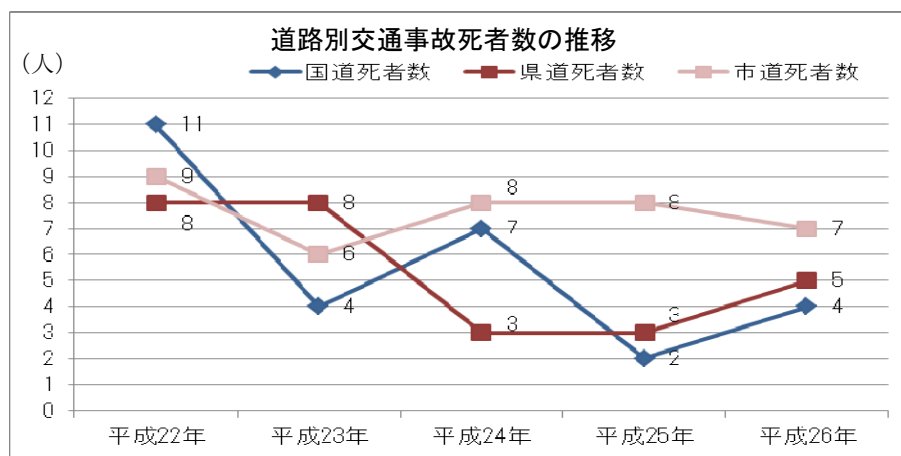
(6) 道路別交通事故発生件数の推移

- ・交通事故発生件数が、国道、県道、市道とともに減少しているが、国道・県道の死者数は増加した。
- ・事故類型別でみると、市道は国道・県道に比べ、交差点等（出会頭、右左折時等）の事故が多く、追突の事故が少ない。また、市道は、人対車両の事故が国道・県道の約4倍、車両単独の事故が約3倍と多い。

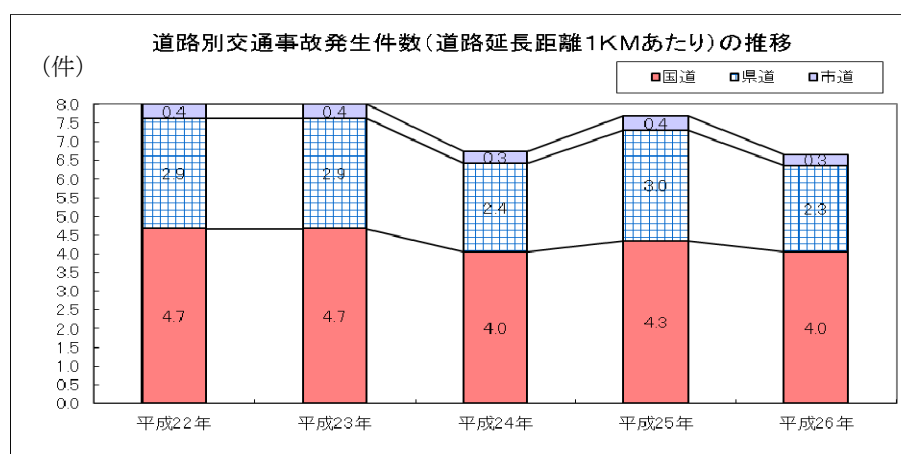
① 道路別交通事故発生件数の推移



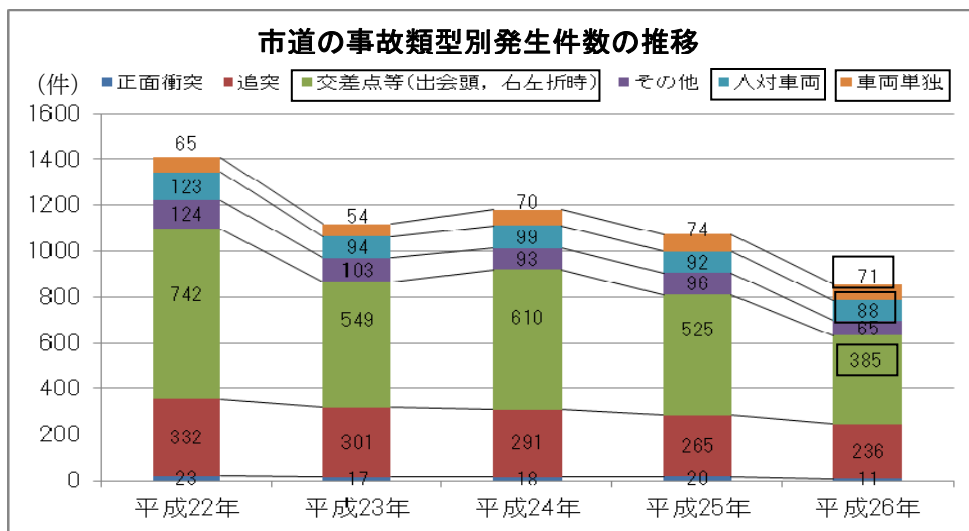
② 道路別交通事故死者数の推移



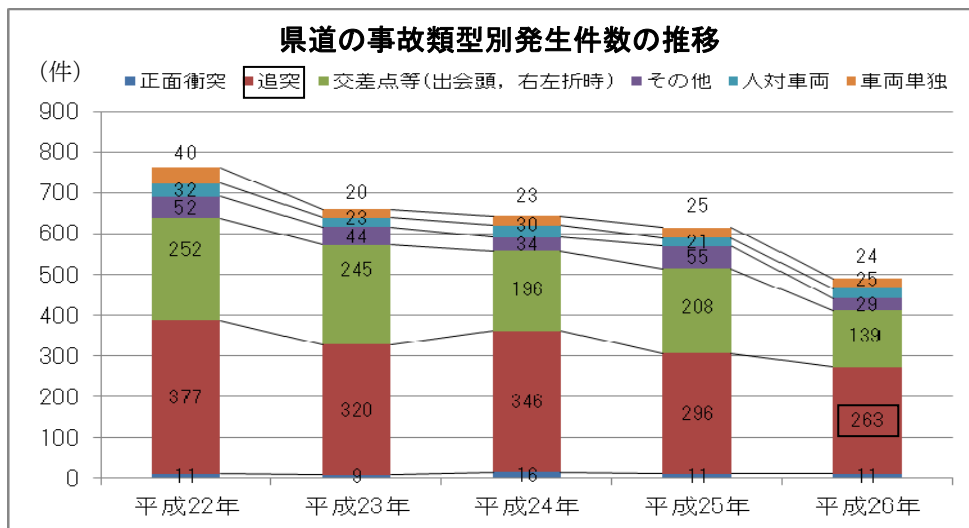
③ 道路別交通事故発生件数（道路延長距離1KMあたり）の推移



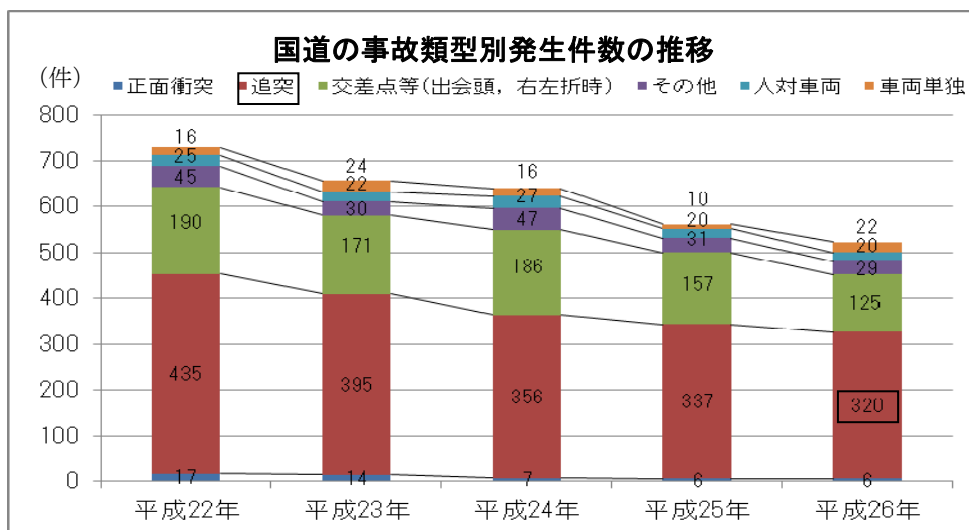
④ -1 市道の事故類型別発生件数の推移



④ -2 県道の事故類型別発生件数の推移



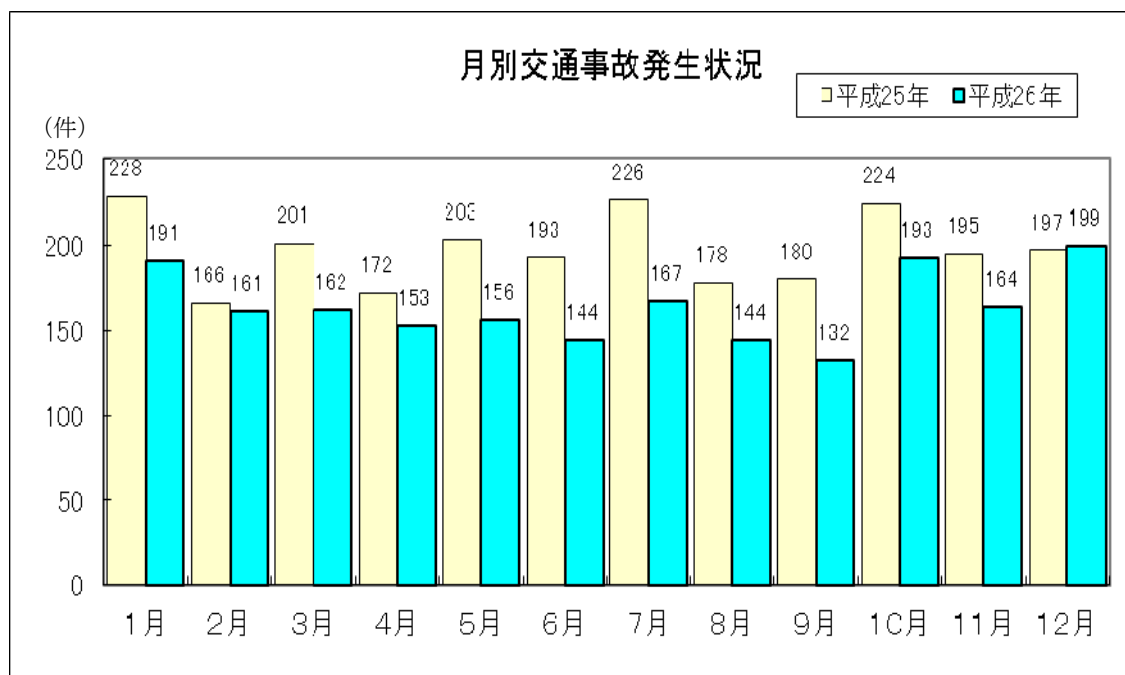
④ -3 国道の事故類型別発生件数の推移



(7) 市内の交通事故発生状況のその他の特徴

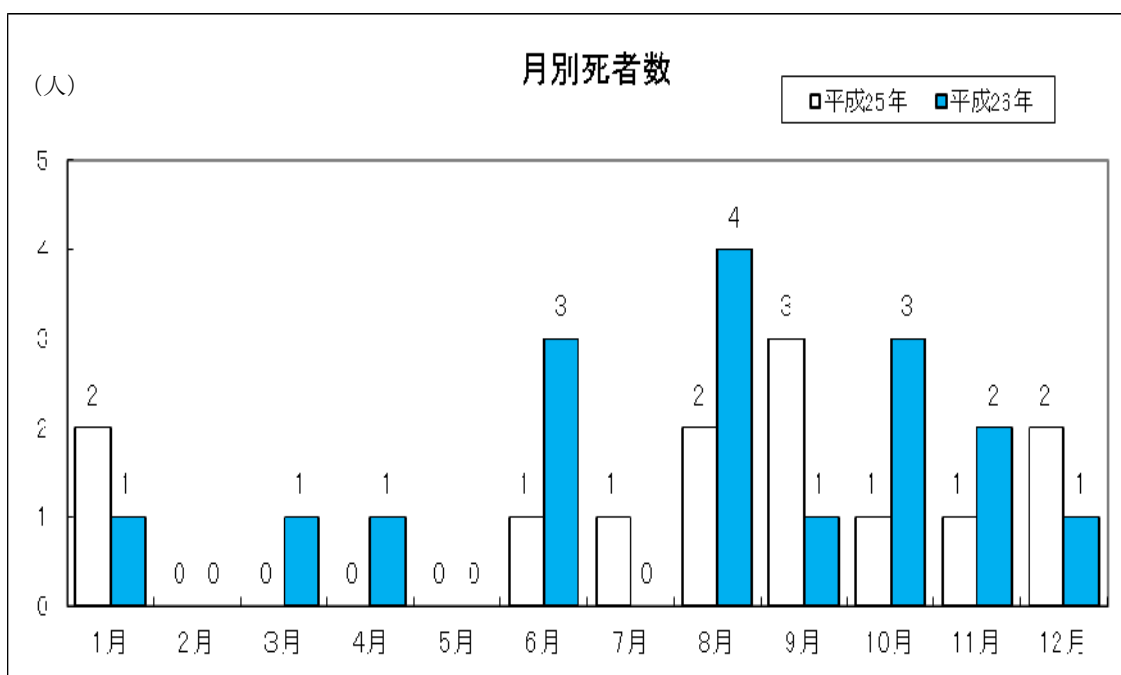
① 月別交通事故発生状況

- ・発生件数の上位月は12月，10月，1月となった。
- ・なお，12月のみ前年比増加した。



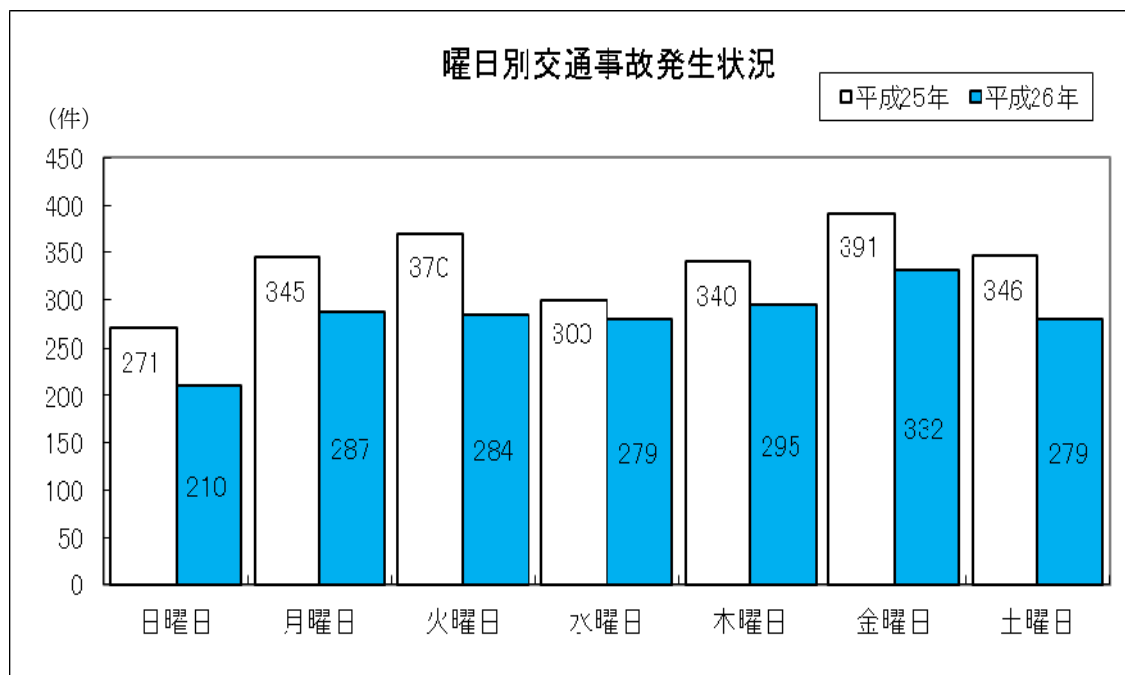
② 月別交通事故死者数

8月～12月（後半）に，死亡事故が多く発生している。



③ 曜日別交通事故発生状況

- ・発生件数の上位曜日は金曜日、木曜日、月曜日の順となった。
- ・なお、金曜日は過去8年連続（H19～H26）で多い曜日となった。



④ 時間帯別交通事故発生状況

- ・8時대가最も多く、次いで17時대에多く発生している。

